



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

「始まりと終わり」

2020年が終わろうとしている。この年は世界中が混乱し苦しみ、出口を模索した一年やったと思う。こんなはずじゃなかった、まさかこんなことになるとは…その繰り返しで今もまだ苦境に立たされてとる人たちもおるやろう。いつまで続くかんからんけど、始まったものには必ず終わりがくる。これは前向きな意味で。そして、私たちの人生は生まれた時から始まって、後戻りも巻き戻しもできん。前に進むしかない、楽しむしかない。今がしんどいからって、明日もしんどいとは限らんからね。もし明日しんどくても明後日も同じとは限らんからね。今年の大変さが来年も再来年も続くわけじゃないからね。新しい年を希望を持って迎えよう。笑う門には福来る。なるべく笑って、笑って過ごそう。やまない雨はない。明けない夜はない。沈んだ陽もまた昇る。信じる方へ動き出します。

今年もこのコラムを読んでくださりありがとうございました。"読みよるよ!"と声をかけられるとちょっと恥ずかしいですがうれしいです。そしてここで書いたことが微力ながらも誰かを励まし、何かの力になっているのなら幸せです。皆さんが、今年よりも笑顔で過ごせる2021年になりますように。愛南町のさらなる発展と皆さんの幸せを心から祈りつつ。少し早いですが、良いお年を。



(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.121

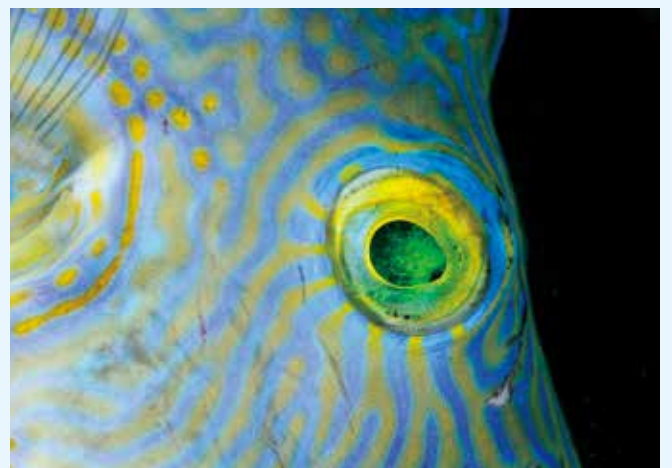


「フグの睨みで厄落とし」

歌舞伎のことは疎いのだが、年末には新しいメンバーを紹介する「顔見せ」という公演があるらしい。役者は顔に模様を描く、隈取りくまどりをしているが、これは表情を大きく見せる効果があるようだ。

フグの顔にも、歌舞伎役者に負けない派手な模様をしているものが多い。雄の方がより派手な模様をしているので、雌へのアピールになっていると考えられる。フグの目は大きく、ギョロギョロとよく動くので、雌への求愛効果もさらにアップするのだろう。

生き物にとって目は弱点のため、チョウチョウオなどは、目を黒い帯で隠し、目立たなくしている。フグが弱点をものともしないの



【キタマクラ】

は、体の中にある猛毒のおかげだろう。

歌舞伎役者の「睨み」には邪気払いや厄落としの効果があるらしい。フグの睨みでは、多少心もとないが、今年の厄を落とし、新たな気持ちで新年を迎えたい。

(撮影地：弓立の浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる